

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	海岸一帯の津波警戒出場中、津波に被災した事例
3. 体験した事例の中心的要素	過去、年1回から2回の津波注意報等発令による津波警戒出場の中で、実際に津波が到達した事例を小隊長以下4名の職員は経験が無く、また津波に対する理解が浅かった。若干の津波到達が確認できても、警戒を中断することなく活動した結果、退避が遅れて津波に被災したもの。
4. 体験した事例の原因・理由	小隊長以下4名の職員は、津波に対する理解が浅く、「波が防波堤を越えてはこないだろう」、「到達までもう少し時間があるだろう」という安易な予測や判断、それらが退避の遅れる原因に繋がった。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成23年3月11日 午後4時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：海岸防波堤脇
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	その他:津波による被災
7. 事例体験時の活動	その他:津波警戒、[][]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他：津波警戒
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

今回の災害を教訓にし、職員が津波を理解し活動できるように訓練等に取り組む。
(消防本部)
隊の長になる者は、隊員をよく観察し、声を掛け合うなどして恐怖心や焦りを緩和させる。
(部隊)

○装備・資機材の対策について

津波警戒出場隊は災害時優先電話(携帯型防水タイプ)を携行する。(部隊) 各隊員は救命胴衣等、着装して活動する。(個人)

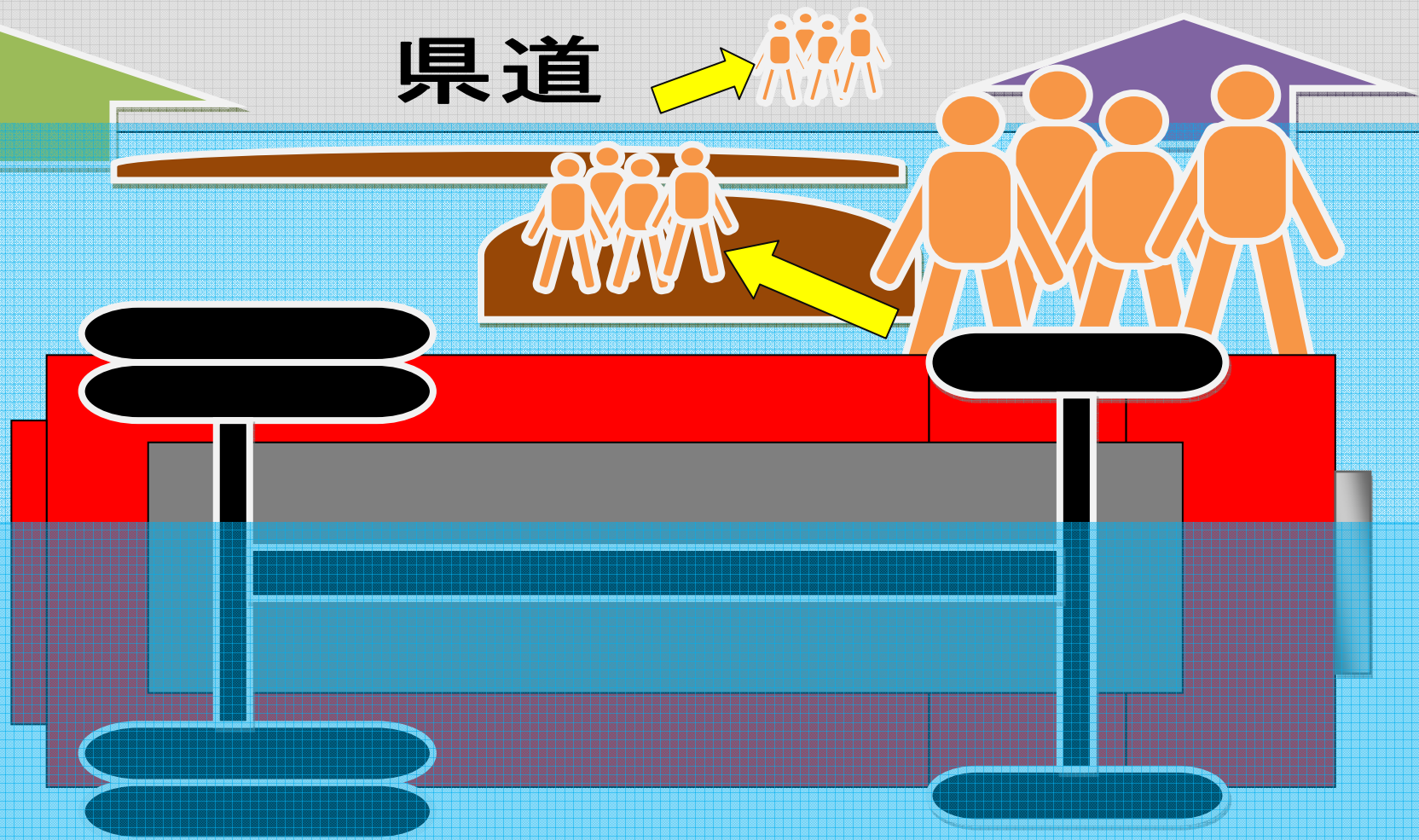
○活動環境の対策について

大規模災害対応マニュアルにそった活動を原則とし、どのような現場でも避難路を確立し、本部との情報を密にする。
(消防本部・部隊)

○指揮・情報伝達の対策について

どんなに小さい変化や情報も出場中の全職員が共有すること。(消防本部)
隊の長になる者は、自分達の安全を確実に保持できるように活動指揮をとること。(部隊)
自隊がまだ安全であっても、他の隊が退避を開始した時点で、自隊も退避を開始すること。
(部隊)

県道



走行路

海水

防波堤
海岸